



安曇野市の重要な自然環境

5.1 重要な自然環境とは

安曇野市にみられる環境区分ごとに、安曇野市の固有な生態系を形作る上で重要な自然環境を選定しました。選定にあたっては、人の手の入っていない自然環境に加え、長い年月をかけて人との関わりのある中で維持されてきた自然環境についても対象としました。

選定した自然環境を説明する際には、標高等により分けた環境区分に加え、表 5-1 に示す長野県のレッドデータブック（植物編 2002 年、動物編 2004 年）及び長野県のレッドリスト（植物編 2014 年）で用いられる環境要素を参考にしました。

また、環境区分ごとに、安曇野市の自然環境の豊かさや生態系の健全性を示す種を「指標種」として記載しました。

【重要な自然環境の選定基準】

重要な自然環境は、以下の基準で選定しました。

- 多様な野生生物が生息・生育する自然環境
- 希少な野生生物が生息・生育する自然環境
- 人との関わりのある中で維持されてきた自然環境

表 5-1 環境区分と環境要素

環境区分	標高区分	環境要素
高山帯	2,400m 以上	森林、草原、裸地、湿地、耕作地、造成地、市街地、社寺林、屋敷林等
亜高山帯	1,600～2,400m	
山地帯	700～1,600m	
山麓部・平野部	700m 未満	
河川・水辺	標高では区分しない	河川、ダム湖、池沼（溜池を含む）、用水路（堰）、湧水地（ワサビ田・養魚場を含む）

5.2 選定した重要な自然環境

安曇野市の重要な自然環境がみられる代表的な地域として、高山帯 5 か所、亜高山帯 5 か所、山地帯 12 か所、山麓部・平野部 10 か所、河川・水辺 11 か所を選定しました。

表 5-2 安曇野市の重要な自然環境がみられる代表的な地域

環境区分	代表的な地域
高山帯	①燕岳とその周辺、②大天井岳とその周辺、③常念乗越とその周辺、 ④蝶ヶ岳とその周辺、⑤大滝山とその周辺
亜高山帯	①合戦尾根、②有明山、③胸突き八丁周辺、④前常念岳下部、 ⑤豆打平上部
山地帯	①中房温泉周辺、②信濃坂、③宮の平周辺、④満願寺周辺、 ⑤県営烏川溪谷地緑地森林エリア、⑥三股周辺、⑦三郷スカイライン周辺、 ⑧馬口入、⑨室山周辺、⑩黒沢洞合自然公園、⑪岩州公園周辺、 ⑫光城山・長峰山周辺
山麓部・平野部	①天蚕センター周辺、②穂高神社、③穂高牧地区、④平野部の屋敷林、 ⑤堀金岩原地区、⑥住吉神社、⑦けやきの森公園、⑧潮神明宮、 ⑨押野山周辺、⑩田沢神明宮
河川・水辺	①中房川源流域、②樽沢の滝・三段の滝周辺、③牧の堤、④延命水周辺、 ⑤烏川源流域、⑥黒沢の滝周辺、⑦中房川・乳川合流付近、 ⑧三川合流周辺、⑨御法田周辺、⑩安曇野湧水群、 ⑪梓川・奈良井川合流付近